様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2013～2014
課題番号：２５８８３００３

研究課題名（和文）アジアにおける中国系ディアスポラの宗教と越境空間の再構築に関する比較研究

研究課題名（英文）Chinese Diaspora in Asia and Remaking of Ethno-religious Landscapes

研究代表者
王　柳蘭（Wang-Kanda, Liulan）

京都大学・白眉センター・准教授

研究者番号：５０３７８８２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、移民と宗教の実践を通して、華人社会の共同性構築のプロセスならびに他者との共生や葛藤の動態を捉えた。タイでは、中国系イスラーム社会におけるハラールフードの実践と喜捨という宗教的規範にもとづ民族間の関係性をとりあげた。日本の華人キリスト教社会では、交易ネットワークによって生まれた移民社会を受け皿にして１９４９年以後にあらたに始まったキリスト教受容の葛藤と信徒の動態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research tried to make a critical treatment of the state approach of institutional integration and assimilation and the approach of center-periphery toward the movement of people across international borders .In my research, micro-negotiations of social bonds is conceptualized as “bottom-up coexistence” and the nature of the formation of ethno-religious boundaries is examined as seen from the viewpoint of those who have crossed the borders . Special attention was given to the Chinese Muslim Diaspora in Thailand and Chinese Christian Society in Japan.

研究分野：文化人類学

キーワード：越境　宗教と民族　中国系社会　イスラーム　キリスト教

１．研究開始当初の背景

申請者の研究は、一貫して、異なる文化や社会に移り住んだ移民・越境者の移住をめぐるエスニシティの変動と生存戦略、他者との相互作用のなかでの共生関係について明かにしていくことにあった。越境や移民問題にこだわって研究した背景には、これまで移民や越境者については、国家との関係性で貧困や国家への従属、差別や同化といった負の移民観で語られる傾向がいまだに根強いからである。そうした中、グローバル化時代において、負の移民観を再考し、民族間の共生、異なる宗教の共生を前提とした共同体のあり方を学術的に探求する必要性を強く感じた。

２．研究の目的

本研究は、グローバル化が進むアジアにおいて中国系ディアスポラに見られる国境を越えた人の流れ、ネットワークと文化的交渉を通して、人と人との多元的な結合から生み出されていく共生関係と可変的に生成されていく地域空間のダイナミズムを探求することにある。とくに、西南中国の雲南省出身の華人社会を対象に母国中国、タイや再移住先の台湾にまたがる移民のネットワークに着眼し、越境にともなう民族・宗教文化が個人や集団レベルにおけるアイデンティティの継承と既存の地域社会に与えるインパクトや共生に果たす役割を解明していく。同時に、在日華人社会における越境と宗教空間の再構築について、とくにキリスト教社会を対象に神戸や大阪を軸にしつつ、他地域も射程にいれたフィールドワークを行う。以上を通して、中国、東南アジア、台湾、日本にまたがる中国系ディアスポラの越境と地域動態に関する地域間比較を行っていく。

３．研究の方法

①1995 年 3 月に北タイにてはじめてフィールドワークを行って以来、北タイ在住の華人社会、とくに中国雲南省出身の華人（以下、雲南系華人）について調査を行ってきた。北タイの雲南系華人には、雲南系漢人と雲南系ムスリムが含まれ、両者が北タイの国境沿いに混住していることが明らかになっている。

図１北タイにおける雲南系華人の移住

①雲南系ムスリムによる 19 世紀末から
　タイ北部への移住：交易キャラバン
②1949 年の中国の体制変化にともなう、
　雲南系漢人と雲南系ムスリムのタイへ
　の移住：避難民としての定着
③20 世紀半ばから現在：トランスナショナルなネットワークの展開

図１に示した歴史的移住の経緯にもとづき、本研究では、雲南系ムスリムの他者との共生関係について、宗教実践を軸にフィールドワークをとおして明らかにしていく。

②萌芽的な研究として日本を対象にしたキリスト教社会における宗教実践のありかたを明らかにする。

４．研究成果

初年度の研究成果としては、①タイ北部における中国系ムスリムと他民族との共生関係の動態は、宗教施設（モスク）や宗教学校を軸に、南アジア系ムスリムとの接触と相互作用のなかでイスラームの覚醒をともなう形で展開していることが明らかになった。②また台湾においては、タイ北部から中東諸国への留学組みがあらたに台湾ムスリム社会のリーダーとして求められていること、宗教を

軸に彼らのネットワークが構築されつつあることが明らかになった。以上、移民と宗教が生み出すコミュニティや共同性の構築プロセス、他者との共生について、タイと台湾における民族間関係を通して実証的に研究を行うことができた。

最終年度の成果としては、①イスラーム社会で重視されているハラール食品と善行の実践が、異郷における共同体形成のなかで中核的な役割を担っていることを指摘し、食文化が単なる物質的、生物学的な目的のみならず、伝統民族文化とイスラーム文化の継承、さらには在地（タイ社会）や多民族を包摂した文化実践であることを明らかにした。②とくに、断食明けの祭りなどの共食儀礼が、喜捨による宗教上の善行をともない、そのことが他民族との共存をうみだす文化装置となっている点を指摘した。③また、日本・神戸に住む中国系キリスト教徒社会を対象に、移民の宗教実践とコミュニティの形成について調査を行った。先行研究では神戸の華人社会の非キリスト教徒研究が多くを占めるなかで、本研究では、交易ネットワークによって生み出された神戸の華人コミュニティを母体にして、1949年以後、中国での宣教活動の経験をもつアメリカ人宣教師によってあらたにキリスト教がもたらされてきた歴史的経緯と華人信徒の動きについて明らかにした。④本研究では、台湾系華人と中国大陸系華人の信徒が、それぞれの文化的政治的歴史的立場を超えて、キリスト教の受容を通じてあらたに共同性を構築している点ならびにそこでの諸葛藤を指摘することができた。

以上のように本研究では、タイ、日本とフィールドを変えながら、移民と宗教が生み出すコミュニティや共同性の構築プロセス、他者との共生について実証的に研究を行うことができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　7　件）

1.王柳蘭編著『下からの共生を問う―複相化する地域への視座』ディスカッションペーパーNo.39, 2014. 118 頁.

【論文等】

1.王柳蘭「多元的結合から共生を考える」『下からの共生を問う―複相化する地域への視座』王柳蘭編著, ディスカッションペーパーNo.39, p3-6,2014.

2.王柳蘭「越境過程における漢人・ムスリム関係の変遷―北タイ国境における共生」『下からの共生を問う―複相化する地域への視座』王柳蘭編著, ディスカッションペーパーNo.39, p52-60,2014.

3.王柳蘭「北タイと中国の関係―移民が生み出す関係性」『日中関係の質的変容をどう理解するか―他地域の視点から捉え直す』塩谷昌史・高橋五郎・貴志俊彦編 JCAS コラボレーション・シリーズ No.8、JCAS 公開シンポジウム報告書, p.29-34, 2014.

4.王柳蘭. 2015.「神戸華人キリスト教徒社会の形成―宣教師と華人の関係性に着目して」小島敬裕編『移動と宗教実践―地域社会の動態に関する比較研究』CIAS Discussion Paper　No.47、京都大学地域研究統合情報センター、55-66

5.王柳蘭 2015.「下からの共生にもとづくネットワーク生成― タイに越境した雲南系ムスリムを事例に」福谷彬・中山大将・ウーリャン共編『京都大学アジア研究教育ユニット報告書 7　2014 年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集』京都大学アジア研究教育ユニット、64-72 頁。

6.王柳蘭 2015.「基于“自下而上的共生”而形成的联系网络-以移居到泰国的云南穆斯林为例」福谷彬・中山大将・ウ

ーリャン共編『京都大学アジア研究教育ユニット報告書 7　2014 年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集』京都大学アジア研究教育ユニット、129－136 頁。

7.王柳蘭 2015.「正義を食べチャイナ」谷川竜一編『世界のジャスティス―地域の揺らぎが未来を照らす』CIAS Discussion Paper　No.50、京都大学地域研究統合情報センター、21-27 頁。

【その他、総合討論】

王柳蘭他 10 名「総合討論」『日中関係の質的変容をどう理解するか―他地域の視点から捉え直す』塩谷昌史・高橋五郎・貴志俊彦編,JCAS コラボレーション・シリーズ No.8, JCAS 公開シンポジウム報告書, p.49-60, 2014.

〔学会発表〕（計　6　件）

・2013 年度

【国際学会における発表】

1. Wang Liulan 'Han/Hui Ethnic Relations and Searching for the Commonality of being "Chinese" and "Muslim" on the Thai/Myanmar Borderland'. Panel "Border-crossing and Redefining Selves: Inter-ethnic relations, ethnicity and searching for commonality in transnational Asia (Organizer: Wang liulan), 6th East Asian Anthropological Association、Xiamen、China、2013 年 11 月 15 日~17 日、査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 王　柳蘭「北タイと中国の関係―移民の視点から」地域研究コンソーシアム年次集会シンポジウム「日中関係の質的変化をどう理解するか―他地域の視点から捉えなおす」、愛知大学、2013 年 11 月 9 日

2. 王　柳蘭「異宗教・異民族間コミュニケーションにおける共生の枠組と地域の複相性に関する比較研究」2012 年度京都大学地域研究統合情報センター―共同利用・共同研究報告会、京都大学、2013 年 4 月 28 日

・2014 年度

【国際学会における発表】

1.Wang-Kanda, Liulan "Halal Food, Identity and Negotiation among Chinese Muslim in Northern Thailand". Annual Conference of East Asian Anthropological Association, Panel 5-1: Everyday Strategy of Negotiating and Co-existence: Food, Self and Culture (Chair: WANG-KANDA Liulan), Nov.11, 2014, YeungNam University, Gyeongsan, South Korea.

2.Wang-Kanda, Liulan " Bottom-up Coexistence: The Negotiation of Chinese Ethnicity, Islam and the Making of Ethno-religious Landscapes among Yunnanese Muslims in the Thai-Myanmar Borderland". Paper presented at the International Workshop on Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness, Dec.5-7, 2014, National Museum of Ethnology and Kyoto University.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1.王　柳蘭「正義を食べちゃいな」京都大学地域研究統合情報センター2013 年度年次報告会「世界のジャスティス―地域の揺らぎが未来を照らす」京都大学稲盛財団記念館、2014 年 4 月 26 日。

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.hakubi.kyoto-u.ac.jp/jpn/jpn
.html
http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/
６．研究組織
(1)研究代表者
王柳蘭　(Wang-Kanda, Liulan　)
京都大学・白眉センター・准教授
研究者番号：
50378824